

御所湖隨想

H23年8月 No.27

御所湖の湿地が危ない！

8月6日に下久保湿地で自然観察会を行いました。この湿地は御所ダムの建設に伴ってできた自然のピオトープと言われております。夏に咲くエゾミソハギの大群落は観光パンフでも紹介されていましたが、最近はその面影が見られず、今回の観察会でその状況を知りたいなと思い開催しました。



10年ぐらい前には釣り人の姿も見かけることができたのですが、この湿地が出来て約30年の時間経過は、人の立ち入りを拒む状況になっていました。晩秋から春にかけてはダム湖の水位が上がり、この下久保湿地も完全に水面下になります。その影響もあるので



しょう、本来高木になるシロヤナギやタチヤナギも樹高が低く抑えられているようです。さすがに時間の経過とともに徐々にではありますが大きくなり、エゾミソハギなど草本の植物を追いやりつつあります。しかも湖岸からは中の湿原景観が全く見えなくなっていました。さらに追い打ちをかけるかのように北米原産のイタチハギが周辺から迫ってきており、伐開しながらでなくとも進めない状況でした。

往時の姿を知る人には、この変わりようはただただ驚くしかありませんでした。何とかしたいと考えている人たちもおりますが、植生の遷移は強敵です。とは言っても池風になっている場所では、小魚を狙うシラサギやアオサギ、そして水面をのんびり



りと泳ぐカルガモ、また白いヒシの花も見られます。濃い緑の植物はフトイでしょうか？



5月の端午の節句に使うショウブも群生しています。やや緑の薄く芝生のようにになっているのはアゼスゲです。黄色のクサレダマや紅紫色のエゾミソハギも咲いていま

す。空ではミサゴが旋回しており、何を狙っているのでしょうか？

ところでこのアゼスゲは南部鉄瓶の裏方として重要な役割を担っております。製作の最終段階に「着色」という工程があるのですが、鉄瓶を約300℃に加熱し、その表面に「クゴ刷毛」を用いて漆を焼き付けるのです。クゴ草の乾燥したものでつくったものが「クゴ刷毛」ですが、このクゴ草こそアゼスゲらしいのです。盛岡手づくり村でもその工程を見ることが出来ますので、是非お立ち寄りください。